有明工業高等専門学校	開講年度	平成30年度 (2018年度)	授業科目	体育実技

科目基礎情報

科目番号	0070	科目区分	一般 / 選択
授業形態	授業	単位の種別と単位数	履修単位: 1
開設学科	機械工学科	対象学年	5
開設期	後期	週時間数	後期:1
教科書/教材	イラストでみる最新スポーツルール（大修館書店）		
担当教員	井上 仁志		

到達目標

1.生涯を通して運動に親しむ態度を育て，各運動に必要な技能の習得及び゛体力の向上を図 ることが゛て゛きる
2.ネット型の球技て゛サーブ゛やラリーが゛て゛きる
3.ターゲ゛ット型の球技て゛意図したところに打つことが゛て゛きる

ルーブリック

	理想的な到達レベルの目安	標準的な到達レベルの目安	未到達レベルの目安
評価項目1	「生涯スポ゜ーツ」とい う考え方を理解し，た くさんのスポ゜ーツに積 極的に参加することが゛ て゛きる	「生涯スポ゜ーツ」とい う考え方を理解し，社 会人になっても健康的に過ご゛せるよう積 極的にスポ゜ーツに親 しむことが゛て゛きる	「生涯スポ゜ーツ」とい う考え方を理解て゛き ず゛，スポ゜ーツに積極的 に親しむことが゛て゛き ない
評価項目2	ネット型の球技のルー ルを理解し，基本的な フ゜レーの応用が゛ケ゛ ーム て゛て゛きる	ネット型の球技のル ールを理解し，基本的 なフ゜レーが゛て゛きる	ネット型の球技のル ールが゛理解て゛きず゛，基 本的なフ゜レーが゛て゛き ない
評価項目3	ターゲ゛ット型の球技の ルールを理解し，基本 的なフ゜レーが゛て゛きる	ターゲ゛ット型の球技 のルールを理解し，10m 程度て゛あれば゛意 図したところに打つ ことが゛て゛きる	ターゲ゛ット型の球技 のルールを理解て゛き ず゛，10m 程度て゛あっ ても意図したところ に打つことが゛て゛きな い

学科の到達目標項目との関係

学習・教育到達度目標 A-1

教育方法等

概要	運動を行うことにより，運動することの楽しさや喜び゛の実感，運動に必要な技能の習得及び゛体力の向上を図る. 主体的に運動に取り組む姿勢や，生涯を通して運動に親しむ態度を育 て，各運動に必要な技能の習得及び゛体力の向上を図ることが゛て゛きる
授業の進め方・方法	実技中心に進める 実技テスト，ルールテスト有り
注意点	実技テスト評価 80%, 小テスト評価 20%て゛総合評価とする

授業計画

		週	授業内容	週ごとの到達目標
後期	3rdQ	1週	シラバ゛ス説明	シラバ゛スの内容を説明て゛きる
		2週	新体力テスト，集団行動	自分の現在の体力を確認て゛きる，号令に合わせ て(集団て゛)行進や方向転換など゛が゛て゛きる
		3週	新体力テスト，集団行動	自分の現在の体力を確認て゛きる，号令に合わせ て(集団て゛)行進や方向転換など゛が゛て゛きる
		4週	ゴ゛ルフ(雨天時卓球)	アプ゜ローチ等を意図したところに落とせる
		5週	ゴ゛ルフ(雨天時卓球)	アプ゜ローチ等を意図したところに落とせる
		6週	実技テスト	
		7週	卓球(雨天時に卓球をし ていた場合は晴天時ゴ゛ ルフ)	ダ゛ブ゛ルスて゛試合が゛て゛きる
		8週	卓球(雨天時に卓球をし ていた場合は晴天時ゴ゛ ルフ)	ダ゛ブ゛ルスて゛試合が゛て゛きる
	4thQ	9週	実技テスト	
		10週	テニス(雨天時バ゛ド゛ミン トン)	ラリーからホ゛レーや スマッシュなど゛を打つことか゛て゛きる
		11週	テニス(雨天時バ゛ド゛ミン トン)	ラリーからホ゛レーや スマッシュなど゛を打つことか゛て゛きる
		12週	実技テスト	
		13週	バ゛ド゛ミントン(雨天時にバドミントンをし ていた場合は晴天時ゴ゛テニス)	ハイクリア，クリア，ド゛ロップ゜と打ち分けることが゛て゛きる
		14週	バ゛ド゛ミントン(雨天時にバドミントンをし ていた場合は晴天時ゴ゛テニス)	ハイクリア，クリア，ド゛ロップ゜と打ち分けることが゛て゛きる
		15週	実技テスト	
		16週		

モデルコアカリキュラムの学習内容と到達目標

分類		分野	学習内容	学習内容の到達目標	到達レベル	授業週
分野横断的能力	態度・志向性(人間力)	態度・志向性	態度・志向性	周囲の状況と自身の立場に照らし、必要な行動をとることができる。	1	
				自らの考えで責任を持ってものごとに取り組むことができる。	1	
				目標の実現に向けて計画ができる。	1	
				目標の実現に向けて自らを律して行動できる。	1	
				日常の生活における時間管理、健康管理、金銭管理などができる。	1	

				社会の一員として、自らの行動、発言、役割を認識して行動できる。	1	
				チームで協調・共同することの意義・効果を認識している。	1	
				チームで協調・共同するために自身の感情をコントロールし、他者の意見を尊重するためのコミュニケーションをとることができる。	1	
				当事者意識をもってチームでの作業・研究を進めることができる。	1	
				チームのメンバーとしての役割を把握した行動ができる。	1	
				リーダーがとるべき行動や役割をあげることができる。	1	
				適切な方向性に沿った協調行動を促すことができる。	1	
				リーダーシップを発揮する(させる)ためには情報収集やチーム内での相談が必要であることを知っている	1	
				法令やルールを遵守した行動をとれる。	1	
				他者のおかれている状況に配慮した行動がとれる。	1	

評価割合

	試験	発表	相互評価	態度	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合	80	0	0	0	20	0	100
基礎的能力	80	0	0	0	20	0	100
専門的能力	0	0	0	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0	0	0	0